

## 平成 21 年度新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業(仮称) 新規研究課題について

### <現状認識>

近年、新たにその存在が発見された感染症(新興感染症)や既に征圧したかに見えながら再び猛威を振るいつつある感染症(再興感染症)が世界的に注目されているが、中でも、新型インフルエンザについては、歴史的に数十年に一度の頻度で発生しており、今後何時発生してもおかしなく、世界的にその準備・研究が急ピッチに進められている。これらの新興・再興感染症は、その病原体、感染源、感染経路、感染力、発症機序について解明すべき点が多く、また迅速な診断法、治療法等の開発に取り組む必要がある。また、このような感染症が発生した場合の国民への不安を解消するための情報提供の在り方(リスクコミュニケーション)や、適切な病原体管理として病原微生物等の検出法の開発・普及、バイオセキュリティ(保管、輸送、安全性強化)等も重要となる。

このため、国内外の新型インフルエンザに関する研究をはじめ、近い将来克服され则认为られていたが再興がみられる麻疹や結核等に関する研究等、幅広く感染症に関する研究を推進させ、これら感染症から国民の健康を守るために必要な研究成果を得ることが求められる。

### <新規研究課題例>

#### (1) 新型インフルエンザへの対応に関する研究

- 我が国の地理的な条件、交通機関の発達度、医療体制、受診行動の特徴等の国民性を踏まえた国内外のデータや条件を基にした新型インフルエンザの被害予測や対策の効果等についての研究
- 効果的なワクチン接種(幼児や高齢者を含む)や治療薬(開発中のものを含む)の使用法、効率的な検査の実施、流行時の患者の受診や診療方法のあり方等に関する研究
- 新型インフルエンザ発生時における迅速な対応を講じるため、より効率的・効果的な診断ができ、かつ短時間で感染の有無を判断できる迅速診断キット等の研究開発に資する研究

#### (2) 感染症の新たな脅威への対応及び感染症対策の再構築に関する研究

- 性感染症の感染者の数的な実態把握に加え、性行動の多様化等の行動学的な背景や病原体の微生物学的な解析の体系的な実施等に関する質的な実態把握に基づき、その予防や治療を体系化し効果的な性感染症対策の実施に資する研究
- 麻疹排除計画の確実な推進や、肺炎球菌、インフルエンザ菌b型等、今後の我が国の感染症対策において必要性の検討が求められる予防接種のあり方、その有効かつ安全な実施方法、費用対効果等に関する研究
- 食品由来感染症の広域発生を早期に探知し、適切な対応に迅速につなげるため、食品由来感染症の原因病原体の遺伝子レベルの解析等による分子疫学手法の高度化に関する研究
- 輸入動物を含めた野生動物、愛玩動物、展示動物等に起因する動物由来感染症による健康被害を防止するため、リスク分析手法に基づくリスク管理のあり方に関する研究

- チクングニア熱、デング熱、ウエストナイル熱等の蚊が媒介する感染症、蜚蠊熱等のシラミが媒介する感染症等の節足動物が媒介する感染症に対して、その実態の把握や防衛等の対応の実施に資する研究
  - 再発・再燃のハンセン病患者の早期発見・早期治療や、薬剤耐性菌を含む難治症例に対する耐性菌の同定、治療等に関する研究及び、皮膚科等の一般診療機関の医師を含む国民におけるハンセン病に対する理解の推進に資する研究
  - 新たに出現しつつある新型薬剤耐性菌の早期発見とそれらの試験法の構築のため、耐性機構の分子・遺伝子レベルでの解析及び新規の検査法の開発等により基礎研究の充実を図り、また新型薬剤耐性菌を含む各種の薬剤耐性菌とそれによる感染症患者の発生動向の監視体制の強化により、今後の薬剤耐性菌まん延防止の対応のあり方の検討に資する研究
  - 従来 of 結核対策の評価と見直し、細胞免疫診断、分子学的結核菌診断、新薬の開発等の新たな技術の開発及び実用化に関する研究
  - 臓器等の移植による提供者からの中枢神経感染症等の感染、移植医療に伴う免疫低下の状態における感染等、移植医療に関連する感染症の予防及び治療等に関する基礎から臨床までの総合的な研究
  - 新型紅斑熱群リケッチア症を含むダニ媒介性感染症及び複数のダニ媒介性病原体の共感染等に関する実態把握と診断法の開発、リケッチア及びアナプラズマの発症及び重症化メカニズム等に関する研究
  - これまでの知見を踏まえてインフルエンザ脳症の発症因子の解明及び具体的な予防方法の確立に向けた研究
  - 近年の百日咳の成人における増加や麻疹の流行等、従来、小児を中心に問題とされていたが、生活様式や生活環境の変化、人口構造の変化等の社会的、宿主的な要因の変化により成人での感染が問題となっている感染症への対策に資する研究
- (3) 国際的な感染症ネットワークを活用した対策に関する研究
- 感染症対策、近年では特に新型インフルエンザ対策を適切に実施するため、アジアをはじめとする諸外国との連携による迅速な情報の収集、国内外の関係機関との円滑な情報共有及び情報交換の重要性が認識されていることに鑑み、国際的なネットワークの構築と患者及び病原体等の感染症サーベイランスの改善・強化等、国内外の関係機関との迅速かつ適切な情報収集、分析、提供体制の構築に関する研究
- (4) 感染症対策にかかる基盤整備に関する研究分野
- 感染症法の下で病原体等を安全かつ円滑に管理するための病原体の保管、輸送、廃棄の一括管理システムの構築、特に新型インフルエンザ等感染症のパンデミック時にも大量の検体を迅速に処理することが可能なシステムの構築、実験室の入退室や病原体等の出し入れ等の記録システムや、使用機器の点検システム等の開発、各種マニュアルや記録文書の作成・保存等の管理システムにかかる開発に関する研究
  - 感染症サーベイランスの高度化、特に、分子進化遺伝子学的手法等を用いた遺伝子型の流行予測システムの構築・データベース化、感染症に関する啓発の在り方の研究等、個別の疾病ではなく、横断的に感染症対策の高度化に資する研究

新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業  
平成22年度 厚生労働科学公募研究事業の概要等（抜粋）

<事業概要>

近年、新たに発見された感染症、今後発生が予想される感染症（新興感染症）や既に征圧したかに見えながら再び猛威を振るう可能性がある感染症（再興感染症）が世界的に注目されており、これらへの適切な対応が求められている。中でも、殆どの者が免疫を持たない新型インフルエンザについては、平成21年4月に発生したH1N1の今後想定されるさらなる感染拡大への対応とともに、従来から懸念されている高病原性鳥インフルエンザから新型インフルエンザの発生についてもその発生の可能性はいささかも低下していないことから、今後とも適切な対応が不可欠である。

これら新興・再興感染症は、①その病原体、感染源、感染経路、感染力、発症機序について未だ解明すべき点が多く、②また迅速な診断法や治療法等の研究開発並びに③これら研究開発を推進するための基盤的研究の推進や、④国内外の研究機関等の関係機関の連携・協力体制の構築、⑤感染症が発生した場合の国民への情報提供の在り方（リスクコミュニケーション）等についての研究を平素より行うことが求められる。

本事業は、新型インフルエンザに関する研究をはじめ、今後、国内で発生が危惧される感染症、近い将来克服されると考えられていたが再興がみられる麻疹や結核、国内での発生は少ないが国外から持ち込まれる可能性がある感染症等、幅広く国内外の感染症に関する研究を推進させることにより、これら感染症から国民の健康を守るために必要な研究成果を得ることを目的とし、一般公募型及び若手育成型の研究を公募する。

<公募研究課題>

【一般公募型】

（ア）新型インフルエンザへの対応に関する研究分野

平成21年に発生した新型インフルエンザH1N1及び今後発生が危惧される高病原性鳥インフルエンザH5N1由来の新型インフルエンザ等に適切に対応する体制を整備するために必要なワクチン開発、ウイルスの解析、病原性の解明、公衆衛生対応、医療対応等に関する研究を行う。

① 新型インフルエンザに対する政策評価及び今後の対策に関する研究

新型インフルエンザの罹患率や死亡率等、疫学的な情報について調査を行い、新型インフルエンザH1N1が与えた社会的影響等を考察し、また、新型インフルエンザH1N1について、発生当初から感染拡大・重症化防止のために講じた様々な政策（検疫・サーベイランス・医療体制・ワクチン戦略等）についての評価を行い、病原性の違いに応じた新型インフルエンザ対策について検討し、今後來たる新型インフルエンザの対策に資する研究を優先する。

② 新型インフルエンザH1N1のウイルスの病原性等の解析に関する研究

新型インフルエンザH1N1の感染者は今後も拡大することが危惧されるが、ウイルスの変異により病原性等の変化が起こると更に健康被害の増大、流行の拡大等が予想される。このため、新型インフルエンザH1N1ウイルスの病原性、抗原性等に関する詳細な解析等を行い、その変化に関する継続的なフォローアップと変化が生じた場合の迅速な対応につながる研究を優先する。

③ 新型インフルエンザH1N1の病態把握、重症化の要因に関する研究

諸外国の症例においては新型インフルエンザH1N1感染者のうち基礎疾患を有する者を中心とした重症例が認められ、我が国においても同様の傾向が認められている。重症例を中心とした新型インフルエンザH1N1の病態を明らかにするとともに、基礎疾患との関連や重症化の機序等の解明、重症化の予防・治療につながる研究、特にインフルエンザに対する抗ウイルス薬の臨床的な効果、耐性の発生状況などを把握し、インフルエンザの抗ウイルス薬の効果的な活用法につながる研究を優先する。

④ 新型インフルエンザ等の院内感染制御に関する研究

これまでの院内感染対策に関する研究の結果を踏まえ、地域の感染対策に関わる医療従事者の数が必ずしも十分ではない中小の医療機関でも実施可能で、新型インフルエンザH1N1も含む院内での感染制御の水準向上につながる研究を優先する。

⑤ その他、新型インフルエンザへの緊急な対応が求められる対策の推進につながる研究

新型インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザH5N1由来を含む)への対応において、緊急に取り組むべき対策の効果的な推進につながる研究を優先する。

(イ) 感染症の新たな脅威への対応及び感染症対策の再構築に関する研究分野

これまで国内においては大きな問題とはなっていなかった感染症の海外からの流入や、生活様式や生活環境の変化、人口構造の変化等の社会的、宿主的な要因の変化により対策の見直しや新たな対応が必要となる感染症について、その状況や要因を把握し、今後の適切な対応につなげるための実態把握、病態解明、診断、治療に関する研究、及びその対応のあり方に関する研究等、これまでの感染症対策の一層の推進及び必要に応じた再構築を行うための研究を行う。

① 現在、国内で分離・同定できないウイルス性出血熱等の診断等の対応方法に関する研究

現在、国内で分離・同定できないウイルス性出血熱等の国内での発生に備え、ウイルスの変異や新たなウイルスの出現に対して常に最新の情報を入手し、対応手段の向上を図る必要がある。このため、新興するあるいは宿主領域を拡大しているウイルス性出血熱等に対するリスク評価を実施し、また必要とされる診断、治療等の対応手段の開発につながる研究を優先する。

② 抗酸菌の慢性持続性感染の機序の解明と発症予防と治療法の開発に関する研究

近年、特に高齢者において加齢による免疫能の低下による結核や非結核性抗酸菌の慢性持続感染からの発症による感染拡大、重症化への対応が臨床現場においても問題とな

っている。このため、明らかになりつつあるが未だ解明不十分な抗酸菌の慢性持続性感染の機序を解明し、その成果が発症予防、治療のためのワクチンや新規治療薬の開発等につながる研究を優先する。

③ 真菌感染症の病態解明に基づく検査・治療法の確立と国内診断・治療ネットワークの構築に関する研究

近年、免疫抑制療法や免疫能低下をきたす者の治療等における深在性真菌症（内臓真菌症）や輸入真菌症への対応が臨床現場においても問題となっているが、我が国では真菌症に対する医療従事者における認知や診断・治療の診療ガイドライン等の整備・普及が十分とは言い難い。このため、これまで蓄積されてきた真菌症に関する研究を踏まえた新たな検査・診断法・治療の開発や、また診断・治療にかかるガイドライン等の作成を行う研究を優先する。

④ 海外からの旅行者により持ち込まれて国内で感染拡大が危惧される寄生虫等の希少な感染症への対応に関する研究

近年、日本人の海外旅行者や外国人の国内長期滞在の増加により、国内では希少な感染症に海外で感染し国内で他者に感染させるリスクの増大が危惧されるが、特に、寄生虫等（その他真菌、細菌等の病原体含む）による感染症については医療従事者の認知や診断能力が不十分で見逃されている症例がある可能性がある。このため、これらによる感染症の侵入監視や診断・治療水準の向上のため、基礎及び臨床の研究者が意思疎通を図り、その実態と病態の把握、診断・治療に関する関係者のネットワークの構築と研究成果のデータベース化や還元につながる研究を優先する。

⑤ 海外からの侵入が危惧される野生鳥獣媒介性感染症の疫学、診断・予防法等に関する研究

我が国での発生はないが、近隣諸国で発生が認められ、飛来や船舶等とともに我が国に侵入することが危惧されている野生鳥獣媒介性の感染症については、十分な情報が得られていない状況にある。このため、発生国の専門家と連携協力体制を構築し、当該感染症の近隣諸国等での発生状況等の把握、疾病の診断・予防法の確立、研究成果等の情報還元による感染症予防につながる研究を優先する。

⑥ 動物由来感染症の制御に向けた診断・予防法の確立、動物由来感染症サーベイランスの強化等に関する研究

動物由来感染症に対しては、近年、欧米を中心に「One Health」の考え方にに基づき、人が健康であるためには人間のみならず家畜や野生動物さらには環境全体での健康の維持の視点が重視されている。このため、感染症、公衆衛生、動物衛生、野生動物等の専門家が連携協力を構築し、外国の研究者との情報交換を図りつつ、動物由来感染症に関するサーベイランスの実施、診断法の確立、有事の感染予防法の検討等、動物由来感染症のより強固な制御につながる研究を優先する。

⑦ 重症呼吸器ウイルス感染症のサーベイランスと制御に関する研究

急性呼吸器感染症を引き起こす病原体は多数存在し、これらは「かぜ症候群」を引き起こすのみならず、特に高齢者や基礎疾患を有する者においては肺炎等の重症化につな

がる。これらの感染症は、症状が似ているため医療機関においてはその鑑別が十分に  
なされていない可能性があり、ある感染症の異常発生等が的確に把握されない場合も危惧  
されている。このため、全国の地方衛生研究所等関係機関との連携協力によりこれらの  
起因ウイルスに関する診断能力の向上、サーベイランスによる発生等の把握が可能な体  
制整備につながる研究を優先する。

⑧ 早期麻疹排除及び排除状態の維持に関する研究

WHOにおいては、2012年までに西太平洋地域から麻疹を排除する計画が掲げられてお  
り、我が国でも麻疹排除に向けた取組が本格的に行われている。この取組を行う課程で、  
更なる接種率の向上等の課題や、現状における全国の検査診断技術の向上、診断体制の  
強化等に対する課題等が明らかになりつつあり、麻疹排除の一層の促進や、また排除状  
態の維持を視野に入れた対応が必要である。この観点から、接種率の向上・維持に資す  
る研究又は全国の地方自治体における検査診断能力の向上と診断体制の構築、麻疹排除  
の目標達成後を視野に入れた対応につながる研究を優先する。

⑨ 重症型のレンサ球菌感染症等（レンサ球菌、肺炎球菌等）のサーベイランスの構築と  
病因解析、診断治療に関する研究

レンサ球菌、肺炎球菌による重症事例は、近年、高齢者のみならず青壮年においても  
認められており、また、肺炎球菌はインフルエンザ等のウイルス感染症の合併症として  
も臨床現場において問題となっている。これらによる重症例の発生状況の把握と病態に  
ついては、未だ十分な知見が得られていない。このため、これら劇症型レンサ球菌、重  
症型の肺炎球菌感染症等に関する病態解明と症例の解析による重症化防止、診断、治療  
の指針等の作成につながる研究を優先する。

(ウ) 国際的な感染症ネットワークを活用した対策に関する研究分野

国際的な感染症の発生状況の把握や他国との連携は我が国の迅速かつ適切な感染症  
対策を実施する上で必要不可欠である。また、アジアを含む周辺諸国における発生動向  
の正確な把握や当該国におけるコントロールは、我が国における新たな感染症から国民  
を守る重要な対策となる。アジア諸国を中心とした感染症の状況の把握、相手国の感染  
症対応能力の向上及び研究ネットワークの構築により我が国の感染症対策を効果的な  
実施するための研究を行う。

① 高病原性鳥インフルエンザの診断・治療に関する国際連携研究

高病原性鳥インフルエンザ（H5N1等）由来の新型インフルエンザ発生の可能性は未だ  
低下していない。これらが引き続き発生しているアジア諸国における高病原性鳥インフ  
ルエンザの病態や病原性の変化等の知見は十分に得られていない。このため、人への感  
染事例を認めるアジア諸国の医療機関、研究機関と協力・連携することにより、高病原  
性鳥インフルエンザの病態の把握と適切な診断・治療の開発につながる研究を優先する。

② エンテロウイルス感染症制御のための診断・治療に関する国際連携研究

1990年代後半には、マレーシア及び台湾で、2008年には中国でエンテロウイルス感染  
による手足口病の大規模な流行が発生し、これらの諸国での大きな公衆衛生上の問題と

なっているととも、我が国への感染拡大も懸念されている。このため、これらの諸国と連携し、東アジア地域における感染サーベイランス体制を構築するとともに、適切な診断・治療の開発につながる研究を優先する。

③ その他、アジア諸国等との連携協力が我が国の感染症対策の推進に有効な国際連携研究

アジア諸国を中心とした感染症の状況の把握、相手国の感染症対応能力の向上及び研究ネットワークの構築により我が国の感染症対策の効果的な実施につながる研究を優先する。

(エ) 感染症対策にかかる基盤整備に関する研究分野

多岐にわたる感染症の予防、診断、治療等に関する研究の推進につながる基盤技術の研究、幅広い感染症に対する効果的な対応につながる応用技術の研究等、幅広く感染症対策全般の推進につながる基盤整備となりうる研究を行う。

① 感染症に対する適切な情報提供、リスクコミュニケーションに関する研究

新型インフルエンザH1N1発生時においては、対策の適切な実施には国民への十分な情報提供と国民の理解が重要であることが再認識されたが、このことは、その他の感染症対応においても同様と考えられる。このため、現在、国内での発生はないが、今後、発生すること等により国民の大きな不安を生じることが危惧される感染症について、平素からの効果的な情報提供や理解の促進につながる研究を優先する。

② 病原体の培養系や感染用実験小動物が確立されていない病原体の実験系の開発に関する研究

培養細胞系で増殖能を持たない非増殖型病原体、感染用実験小動物のない病原体等の実験系が確立されることにより、診断、治療、ワクチン開発に関する研究を劇的に推進できることが期待される。このため、これらの開発、実用化が比較的短期間で見込まれる研究を優先する。

③ その他の広く感染症対策の推進につながる基盤整備に関する研究

多岐にわたる感染症の予防、診断、治療等に関する研究を推進する基盤技術の開発、幅広い感染症に対する効果的な対応につながる応用技術の開発に関する研究を優先する。

【若手育成型】

新興・再興感染症の研究分野への研究者の新たな参画を促進し、感染症対策に関する研究の推進を図ることを目的とする研究

課題の採択に当たっては、【一般公募型】の課題のうち「(エ) 感染症対策にかかる基盤整備に関する研究分野」に関する研究を優先する。

## 平成23年度厚生労働科学研究費補助金公募要項(抜粋)

### <事業概要>

近年、新たにその存在が発見された感染症(新興感染症)や既に制圧したかに見えながら再び猛威を振る可能性のある感染症(再興感染症)が世界的に注目されている。これらの感染症は、その病原体、感染源、感染経路、感染力、発症機序についてさらに解明すべき点が多くまた変化も見られるため、発生の早期探知や適切な診断法、治療法等の開発等に常に取り組む必要がある。

中でも、新型インフルエンザについては、平成21年4月に発生した A/H1N1 は想定される再流行への対応や、従来からその発生が大いに懸念されている高病原性鳥インフルエンザ H5N1 から新たな新型インフルエンザが発生・流行した場合の対応等、いずれも蓋然性は低くないことから、引き続き研究の推進が必要である。

また、現在、予防接種法の抜本的な制度の見直しが議論されるなかで、見直しは喫緊の課題であるが、その検討の学術的な基礎データを早急に整備する必要がある。

本事業は、新型インフルエンザに関する研究をはじめ、今後、国内で発生が危惧される感染症、近い将来克服されると考えられていたが再興のみられる感染症、国内での発生は少ないが国外から持ち込まれる可能性のある感染症等に対し、①その病原体、感染源、感染経路、感染力、発症機序に関する研究、②迅速な診断法や予防法・治療法等の研究開発、③これら研究開発を推進するための基盤的研究、感染症に関する医療体制の確保、適切な情報提供や院内感染防止など政策課題に関する研究等、幅広く国内外の感染症に関する研究を推進させることにより、これら感染症から国民の健康を守るために必要な研究成果を得ることを目指す。

この公募は、本来、平成23年度予算成立後に行うべきものであるが、できるだけ早く研究を開始するために、予算成立前に行うこととしているものである。従って、成立した予算の額に応じて、研究費の規模、採択件数等の変更が生じる場合等がある。

### <新規課題採択方針>

新型インフルエンザ等新興・再興感染症について、国内への流入・まん延の防止、発生時の適切な対応のため、予防法、診断法、治療法の開発や、これらの開発に結びつく病態・感染機序の解明に関する研究、適切な行政対応の実施の基礎となる感染リスク評価・国内外の関係機関との連携協力の推進、国民への情報提供等に資する研究を行う(ただし、肝炎、HIVに関する研究を除く)。特に、新型インフルエンザに関しては、高病原性の鳥由来新型インフルエンザが発生した場合に備え、エビデンスに基づく新型インフルエンザ対策の再構築を図ることに資する研究を実施する。

また、現在、抜本的な予防接種制度の見直しが議論されるなかで、その検討及び今後の施策の推進のための学術的な基礎データを早急に整備するための研究を実施する。このほか、エボラ出血熱等の重篤な感染症、バイオテロの国内発生への対応、今なお患者数の多い結核に関する研究等も進めていく。



研究費の規模:1課題、1年当たりの研究費 10,000～50,000 千円程度  
ただし、「若手育成型」については、2,000～5,000 千円程度)

研究期間:1～3年

新規採択予定課題数:合計 16 課題程度、うち「若手育成型」については合計2課題程度  
※各研究課題について原則として1研究を採択するが、採択を行わない又は複数の採択をすることがある。

若手育成型の応募対象:

平成23年4月1日現在で満39歳以下の者(昭和46年4月2日以降に生まれた者)

※新規採択時にのみ本条件を適用する。

※満年齢の算定は誕生日の前日に1歳加算する方法とする。

※産前・産後休業及び育児休業を取った者は、その日数を応募資格の制限日に加算することができる。

## <公募研究課題>

### 【一般公募型】

#### [1] 新型インフルエンザへの対応に関する研究分野

平成21年4月に発生した新型インフルエンザ H1N1 及び今後発生が危惧される高病原性鳥インフルエンザ H5N1 由来の新型インフルエンザ等に適切に対応する体制を整備するために必要なワクチン開発、ウイルスの解析、病原性の解明、公衆衛生対応、医療対応等に関する研究を行う。

#### ① 高病原性の新型インフルエンザ発生に対する事前準備及び緊急対応に関する研究 (23210101)

(留意点)

今般の新型インフルエンザ(A/H1N1)における経験を踏まえ、発生が危惧される高病原性鳥インフルエンザ H5N1 由来の新型インフルエンザ等に適切に対応するため、新型インフルエンザの出現機序と予測、早期探知、リスク評価及び新型ワクチン開発(ワクチン株を含む)など、新型インフルエンザに対する事前準備と緊急対応の再構築に資する研究であること。

#### ② 新型インフルエンザ発生時の公衆衛生対策の再構築に関する研究 (23210201)

(留意点)

新型インフルエンザ大発生時におけるまん延防止のための公衆衛生対策は、手洗い等の個人の行動変容から学校閉鎖まで社会的に多岐の分野にまたがっている。高病原性鳥インフルエンザからの新型インフルエンザの発生に備え、本邦及び諸外国における今般の新型インフルエンザ A/H1N1 対策の知見を踏まえ、まん延防止のためのより効率的・効果的な公衆衛生対策を構築する研究であること。

#### [2] 感染症の新たな脅威への対応及び感染症対策の再構築に関する研究分野

これまで国内においては大きな問題とはなっていなかった感染症の海外からの流入や、生活様式や生活環境の変化、人口構造の変化等の社会的、宿主的な要因の変化により対策の見

直しや新たな対応が必要となる感染症について、その状況や要因を把握し、今後の適切な対応につなげるための実態把握、病態解明、診断、治療に関する研究、及びその対応のあり方に関する研究等、これまでの感染症対策の一層の推進及び必要に応じた再構築を行うための研究を優先させる。

**① 予防接種に関するワクチンの有効性・安全性等についての分析疫学研究(23210301)**

(留意点)

新型インフルエンザワクチン(特にハイリスク集団に対する)、インフルエンザ菌 b 型、肺炎球菌、水痘、おたふくかぜなど、現在、予防接種に位置づけられている、もしくは今後位置づけられる可能性のあるワクチンの分析疫学的な視点からの有効性・安全性の検討を行うことにより、今後のワクチン行政の向上に資する学術的な基盤となる研究であること。

**② 我が国における一類感染症の患者発生時に備えた診断・治療等の臨床的対応及び行政対応に関する研究(23210401)**

(留意点)

一類感染症患者発生時の医療機関等におけるバイオセーフティに配慮した病原体及び患者管理、接触者への対応、医療従事者等に対する教育等、患者の適切な診断、治療と二次感染の防止等に必要な対応、及び適切な行政対応等について、具体的な対応ガイドラインを整備するための研究であること。

**③ HTLV-1 感染症の診断法の標準化と発症リスクの解明等に関する研究(23210501)**

(留意点)

HTLV-1 ウイルスに関しては NAT 検査が確立しておらず判定不能となる者が存在するなど、検査法の整備が求められている。検査・診断法確立と共に疫学的な観点からキャリアの発症リスクの解明を行うなど HTLV-1 感染症の対策に資する研究であること。

**④ 地域流行型真菌症の疫学調査、診断治療法の開発に関する研究(23210601)**

(留意点)

新たに病原性の変化や分布域の拡大が報告されている *Cryptococcus gattii* などの地域流行型の真菌症に関する全国規模の実態把握調査、簡易・迅速な診断法の開発、治療効果の検証等に関する研究を行う。

**⑤ 顧みられない寄生虫病の効果的な監視方法の確立、感染機構の解明等に関する研究(23210701)**

(留意点)

顧みられないが、我が国で問題となりうる寄生虫症の効果的な監視方法の確立、感染機構等の解明等に関する研究を通じて、これら寄生虫症の発生・まん延防止に資する研究であること。

**⑥ 潜在性抗酸菌感染症の病態機構の解明及び診断・治療・予防に関する研究(23210801)**

801)

(留意点)

潜在性抗酸菌(結核菌や非結核性抗酸菌)感染症について、菌および宿主の視点から、病原性や発病に係る病態機構を解明し、潜在性抗酸菌感染症の新規診断法、抗微生物薬やワクチン開発に基盤を提供する研究であること。

#### ⑦ 地域における効果的な結核対策の強化に関する研究 (23210901)

(留意点)

発生の予防及びまん延の防止の強化や結核医療の質の確保など地域の結核対策における課題解決を目的とし、地域の結核対策の現状や課題の分析・評価、分子疫学的手法も含めた効果的な対策の介入強化に関する研究であること。

#### ⑧ 感染症の予防、診断・治療又は医療水準の向上のための臨床的研究(23211001)

(留意点)

感染症の予防、診断・治療又は医療水準の向上のための臨床的研究であること。検証する仮説が明確で周到に計画された臨床研究や医療現場のニーズに基づき感染症医学の質の向上に直結する研究を優先する。

### [3]国際的な感染症ネットワークを活用した対策に関する研究分野

国際的な感染症の発生状況の把握や他国との連携は我が国の迅速かつ適切な感染症対策を実施する上で必要不可欠である。また、アジアを含む周辺諸国における発生動向の正確な把握やコントロールが、我が国における新たな感染症から守る重要な対策である。アジア諸国を中心とした感染症の状況の把握、相手国の感染症対応能力の向上及び研究ネットワークの構築により我が国の感染症対策を効果的に実施するための研究を行う。

#### ① 海外から輸入される多剤耐性結核に関する研究 (23211101)

(留意点)

海外から輸入される多剤耐性結核の分子疫学的解析やHIV合併の把握、多剤耐性結核の診断・治療の確立、今後必要な国内外の結核対策に関する研究であること。

#### ② 我が国への侵入・定着が危惧される蚊媒介性ウイルス感染症に対する総合的対策の確立に関する研究 (23211201)

(留意点)

我が国に侵入し定着する可能性が最も危惧されるチクングニア熱、デング熱等の蚊媒介性ウイルス感染症に対して総合的対策を確立するため、診断法、ウイルスの分子疫学的解析、病原性の解明を行うとともに、防御法、ワクチンや抗ウイルス剤開発のための科学的基盤を確立する研究であること。

### [4]感染症対策にかかる基盤整備に関する研究分野

多岐にわたる感染症の予防、診断、治療等に関する研究の推進につながる基盤技術の研究、

幅広い感染症に対する効果的な対応につながる応用技術の研究等、幅広く感染症対策全般の推進につながる基盤整備となりうる研究を行う。

**① バイオテロに使用される可能性のある病原体等の新規検出法と標準化に関する研究 (23211301)**

(留意点)

バイオテロに使用される可能性のある病原体やそれが予想される不明疾患の原因病原体等の新規検出法とその標準化に関する研究であること。

**② 国際的なバイオリスク管理の基準に基づく病原体取扱いと管理に関する総合システムの構築と検証に関する研究 (23211401)**

(留意点)

特定病原体だけではなく、感染性物質を包含する可能性のある臨床検体および病原体を取り扱う施設を広く対象にして、国際的標準を十分に考慮して、最低限必要とする機構、教育研修、実証項目などを示し、自己管理を可能とするバイオリスク管理システムを構築するとともに、緊急モードを設定して事故・災害時に対応する体制の再構築を図る研究であること。

**③ 経鼻インフルエンザワクチン等粘膜ワクチンの有効性の評価に関する研究 (23211501)**

(留意点)

経鼻インフルエンザワクチン等粘膜ワクチンに関して、ヒトでの実用化を目指した有効性評価方法の確立のための研究を行う。

**④ 予防接種後副反応サーベイランスの効果的な運用とその行政的な活用のあり方に関する研究 (23211601)**

(留意点)

迅速な予防接種後副反応報告に基づき副反応情報を効果的に活用できるよう、集計、解析、リスク評価、並びに情報提供のあり方を確立する研究であること。

**【若手育成型】**

**① 新興・再興感染症の研究分野への研究者の新たな参画を促進し、感染症対策に関する研**

**究の推進を図ることを目的とする研究 (23211701)**

(留意点)

課題の採択に当たっては、【一般公募】の「(4)感染症対策にかかる基盤整備に関する研究分野」に関する研究を優先する。

研究評価支援システム 評価者操作マニュアル

# 操作説明書

平成 23 年 3 月 10 日

平成 23 年 3 月

# 目次

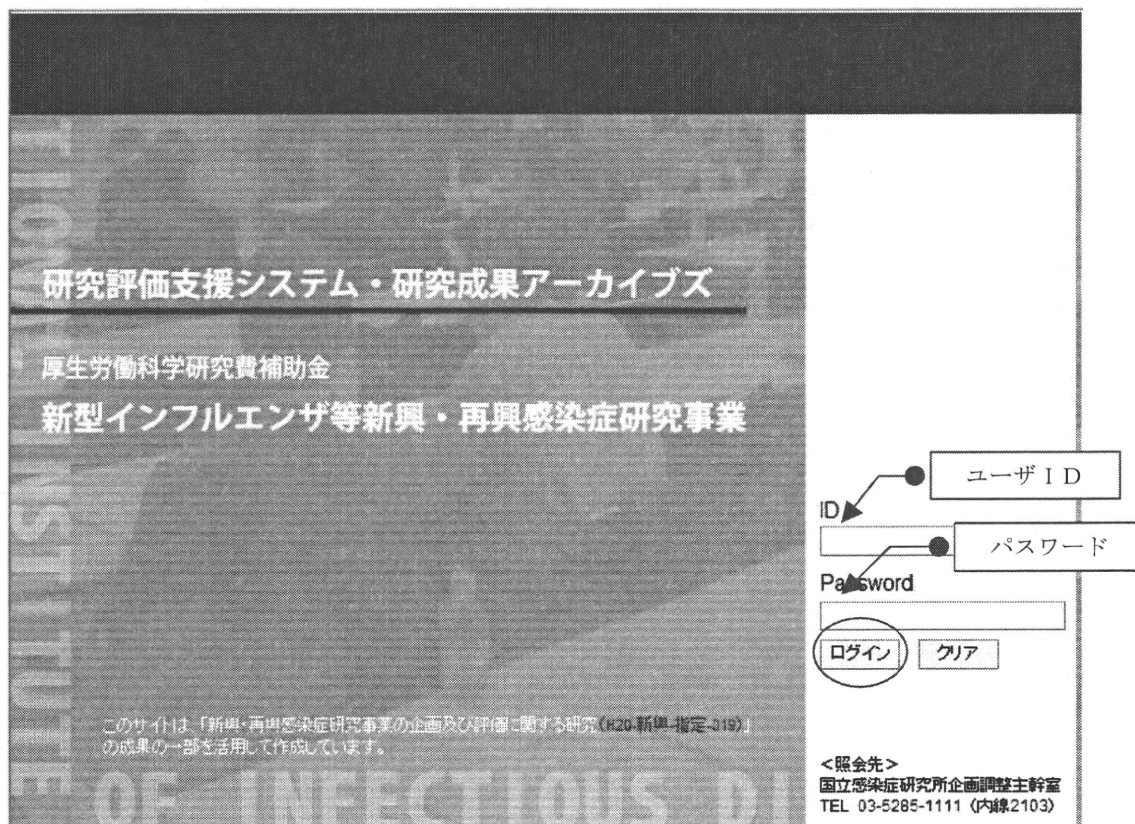
<b>1.1 Web 研究評価支援システムの起動（ログイン）</b> .....	<b>1</b>
操作説明 .....	1
<b>1.2 評価課題一覧画面</b> .....	<b>3</b>
画面説明 .....	3
処理説明 .....	4
<b>1.3 評価入力・訂正画面</b> .....	<b>5</b>
画面説明 .....	5
評価入力項目説明 .....	8
処理説明 .....	9
<b>1.4 確認画面</b> .....	<b>10</b>
画面説明 .....	10

## 1. 評価者操作説明

## 1.1 Web 研究評価支援システムの起動（ログイン）

ブラウザ（インターネットエクスプローラー）から研究評価支援システムを起動し利用者認証を受けなければ研究評価支援システムを利用する事は出来ません。

下記の方法で、研究評価支援システムに対して、自分のユーザIDとパスワードを入力して、ユーザ認証処理<sup>1</sup>を行って下さい。



【ログイン画面】

## 操作説明

## 研究評価支援システムの起動ログインを行う場合

## (1) 研究評価支援システムの起動を行う。

- ブラウザのアドレス欄に「<http://www.medical-bank.jp/sinkousaikou/>」を入力しエンターボタンを押下して下さい。
- ログイン画面が表示されます。（下記【図ーログイン画面】を参照）

## (2) ログイン画面にユーザIDとパスワードを入力して下さい。

- ログイン画面に自分のユーザIDとパスワードを入力して下さい。
  - ユーザID欄には自分のIDを入力して下さい。
  - パスワード欄には設定した自分のパスワードを入力して下さい。パスワード欄は●で表示されます。

<sup>1</sup> ユーザ認証とは：

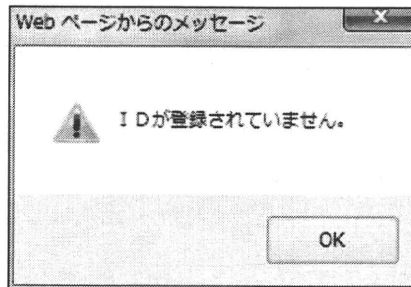
システムに事前に登録されているユーザIDとパスワードを入力されたユーザIDとパスワードの一致をチェックし本人性の確認を行うことです。

## 1. 評価者操作説明

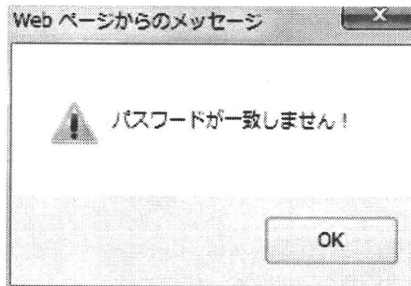
---

- 正しく入力できたら「ログイン」ボタンを押下して下さい。
- ユーザ認証が正常に行われ、評価課題一覧画面が表示されればシステム起動（ログイン）は終了です。

→ユーザIDとパスワードが違っていた場合、システム起動（ログイン）は出来ません、（下記、エラーメッセージ画面が表示されます）再度、正しいユーザIDとパスワードを入力して下さい。



原因：ユーザーIDの入力誤り



原因：パスワードの入力誤り



1. 評価者操作説明

1.2 評価課題一覧画面

評価課題一覧画面は、ユーザ認証処理が完了した時点で表示されます。  
 一覧画面の初期表示は「全申請」が表示されます。

メニューバー

評価課題		事業概要	1年目	2年目	3年目	ログアウト	新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業
評価対象件数: 10 件							
※ 評価対象外の課題は白く表示されており、クリックすると評価情報をご覧になれます。							
No.	課題番号	研究課題名	研究代表者	所属施設	職名		
1	H19-新興一般-001	医療機関における感染症伝播に関する研究	切替照雄	国立国際医療センター研究所 感染症制御研究部	部長		
2	H19-新興一般-002	新規に発生しているレンサ球菌による劇症型感染症の臨床的・細菌学的解析と、診断・治療法に関する研究	砂川 慶介	北里大学大学院感染制御科学府・北里大学生命科学研究部 感染症学研究室	教授		
3	H19-新興一般-003	防疫上緊急を要するウイルス性出血熱等に対する病原体診断法の確立及び予防・治療法の開発に関する研究	森川 茂	国立感染症研究所ウイルス第一部第一室	室長		
4	H19-新興一般-004	感染症への国民啓蒙に効果的なリスクコミュニケーション方法と教育方法に関する研究	丸井 英二	順天堂大学医学部公衆衛生学教室	教授		
5	H19-新興一般-005	インフルエンザ(H5N1)の死因となる劇症型ARDSの病態解析と治療法の開発に関する研究	河内 正治	国立国際医療センター手術部	部長		
6	H19-新興一般-006	抗酸菌感染症の発症・診断・治療・新世代予防技術に係わる分子機構に関する研究	牧野 正彦	国立感染症研究所感染制御部	部長		
7	H19-新興一般-007	慢性寄生虫感染症の侵入監視及びその健康管理体制の確立	宮平 靖	防衛医科大学校国際感染症学講座	教授		
8	H19-新興一般-008	深在性真菌症と輸入真菌症に関する新しい検査法と抗真菌薬の開発、並びに病原因子の解明に向けたポストゲノムの基盤的研究	大野 秀明	国立感染症研究所生物活性物質部	室長		
9	H19-新興一般-009	動物由来感染症の生態学的アプローチによるリスク評価等に関する研究	山田 章雄	国立感染症研究所獣医学部	部長		
10	H19-新興一般-010	我が国における動物由来感染症の感染実態把握に資する研究	夢田 有希	国立感染症研究所感染症情報センター	室長		
11	H19-新興一般-011	遺伝子増幅RPA法に基づいた媒介動物における迅速簡便病原体検出法の開発	嘉織洋陸	帯広畜産大学原虫病研究センター	教授		
12	H19-新興一般-012	国内で発生するハエ媒介性感染症の疫学診断法等の研究	莉和 宏明	北海道大学大学院獣医学研究科	准教授		
13	H19-新興一般-013	ウイルス感染症の効果的制御のための病原体サーベイランスシステムの検討	清水 博之	国立感染症研究所ウイルス第二部	室長		
14	H19-新興一般-014	中空粒子を用いたウイルス性肝炎の新しい検査・予防法の開発	鈴木 哲朗	国立感染症研究所ウイルス第二部	室長		
15	H19-新興一般-015	経鼻粘膜投与型インフルエンザワクチンの臨床応用に関する研究	長谷川 秀樹	国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センター	室長		

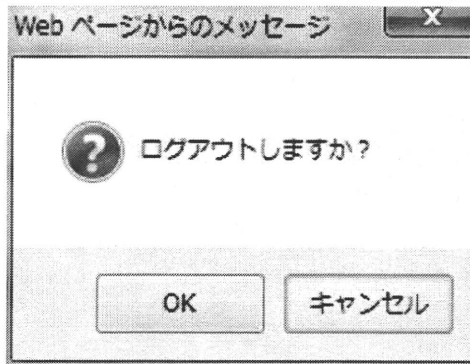
【評価課題一覧画面】

画面説明

メニューバー（表示機能文言（リンク文字）が朱色になります）

- 「事業概要」をクリックすると事業概要画面が表示されます。
- 「全申請」をクリックすると全申請評価課題一覧画面が表示されます。
- 「1年目」をクリックすると1年目の評価課題一覧画面が表示されます。
- 「2年目」をクリックすると2年目の評価課題一覧画面が表示されます。
- 「3年目」をクリックすると3年目の評価課題一覧画面が表示されます。
- 「ログアウト」をクリックするとログアウトされログイン画面に遷移します。  
 業務を終了する時にログアウトを行って下さい。

## 1. 評価者操作説明

**明細部**

- (1) 評価対象件数を表示。  
→ログインした評価委員に割り当てられた評価課題件数が表示されます。
- (2) 評価課題明細を表示。  
→白い背景色の明細行の課題は、評価対象外の評価課題です。

**処理説明**

**評価課題一覧画面から下記、業務処理画面に遷移します。**

**1.3 評価入力・訂正業務**

評価課題一覧画面から背景色の明細行のリンク文字（課題番号・研究課題名・研究代表者）をクリックすると評価入力・訂正画面に遷移します。

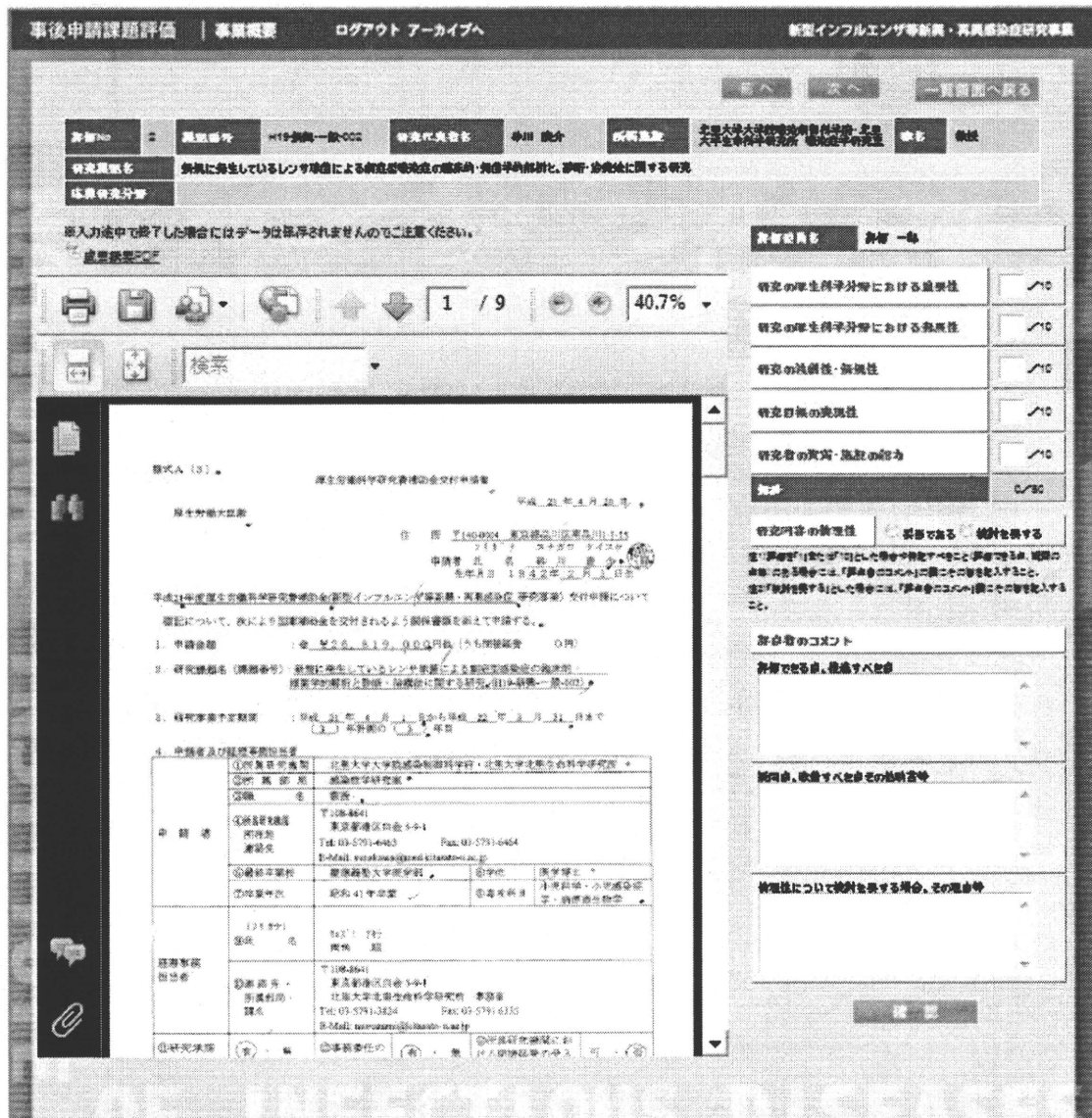
**評価参照**

評価課題一覧画面から白い背景色の明細行のリンク文字（課題番号・研究課題名・研究代表者）をクリックすると評価参照画面（入力不可）に遷移します。

1. 評価者操作説明

1.3 評価入力・訂正画面

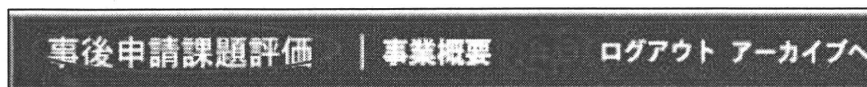
評価課題一覧画面より評価入力・訂正画面が表示されます。



【評価入力・訂正画面】

画面説明

(1) メニューバー



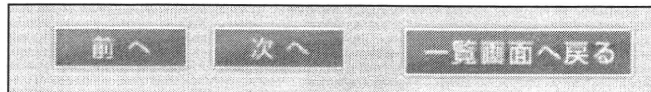
表示されている申請年度年度の表示

- 1年目：事前申請課題評価
- 2年目：中間申請課題評価
- 3年目：事後申請課題評価

## 1. 評価者操作説明

## (2) 画面遷移

- 「前へ」：前の評価課題の評価入力・訂正画面へ遷移します。前の評価課題が無い場合は「前へ」は表示されません。
- 「次へ」：次の評価課題の評価入力・訂正画面へ遷移します。次の評価課題が無い場合は「次へ」は表示されません。
- 「一覧画面へ戻る」：1.2 の評価課題一覧画面へ遷移します。



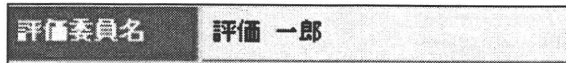
## (3) 評価課題基本情報の表示

評価No.・課題番号・研究代表者名・所属施設・職名・研究課題名・応募研究分野が表示されます。

評価No	2	課題番号	H19-新興一般-002	研究代表者名	砂川 慶介	所属施設	北里大学大学院感染制御科学府・北里大学生命科学研究所 感染症学研究室	職名	教授
研究課題名	新規に発生しているレンサ球菌による劇症型感染症の臨床的・細菌学的解析と、診断・治療法に関する研究								
応募研究分野									

## (4) 評価委員の表示

ログインした評価委員名が表示されます。



## (5) 成果概要PDFファイルの表示

成果概要PDFファイルがサーバーにアップされている場合、表示されます。リンク文字をクリックすると別画面で成果概要PDFファイルが表示されます。

